

アジア・太平洋経済圏の形成と多国籍企業

Economic Integrations in Asia and Pacific and Multinational Corporations

新 保 博 彦

Hirohiko SHIMPO

第1論文：「カナダ・オセアニア2か国の経済発展と企業活動」（『大阪産業大学論集 社会科学論』、111号、1999.3）

<要旨>

カナダとオセアニア2か国（オーストラリアとニュージーランド）はともに、イギリスを中心とするヨーロッパ人の植民が活発に行われ、後にイギリスの自治領として発展した。したがって、これらの国々は当初はイギリスとの関係が密接であったが、戦間期ごろからその経済発展には大きな違いがみられるようになった。カナダではアメリカとの経済の一体化がしだいに進み、オセアニア2か国はスターリング経済圏での役割を大きくしてきた。

ところで、これらの国々は、今再び大きな転換期を迎えようとしている。カナダのアメリカとの一体化はいちだんと進んでいる。それをつうじて、メキシコを含む北米自由貿易協定（NAFTA）との関係を深めている。いっぽう、オセアニア2か国は、イギリスやヨーロッパ諸国との関係を弱め、急速な発展の著しい日本を含むアジアとの関係を強めている。オーストラリアは、アジアの経済統合をめざすAPEC（アジア太平洋経済協力会議）の提唱国である。ただし、カナダではアメリカとの間で水平的な直接的な関係を強めているのに対し、オセアニア2か国は日本・アジアとの間で垂直的で間接的な関係を形成している。

以上は全体としての国の経済発展の特徴であるが、それを支えるこれらの国々の企業はグローバルな展開を活発に進めている。自然資源が豊富で自由な経済活動の伝統があるこれらの国々には、ほかの国にはみられないタイプの企業が発展している。それらの活動は、各国の経済発展のさまざまな可能性を拡大している。

第2論文：「転機に立つラテン・アメリカ経済と新たな企業集団の形成」（『大阪産業大学論集 社会科学編』、113号、1999.6）

<要旨>

1997年の夏にアジアで始まった通貨・金融危機は、ラテン・アメリカにも波及した。その影響はしだいに大きくなり、ついに1999年ブラジルのレアルの切り下げをもたらした。それは再び世界経済を不安定にしている。

ラテン・アメリカ経済は、90年代に入って各国政府が大胆な民営化政策に取り組み、かつてない安定した発展を達成してきた。今日のラテン・アメリカについては、その一時的な不安定さにもかかわらず、今後の発展が期待されている。

90年代に入って本格的に展開した民営化は、これらの国々で新たな企業集団の形成をもたらし、さまざまな企業間の競争を活発にし、これらの国々の経済発展を支えている。本論文では、以上のようなラテン・アメリカ経済の現状と、ラテン・アメリカ企業の活動の特徴を、とくにアジアとの比較を念頭において詳しく検討した。

その結果、この地域では同時に、民営化が着実に進展し、グローバルなレベルで活躍する新たな民間企業と企業集団の形成と発展がみられ、それらの各国経済に占める比重が確実に高まっていることが明らかになった。また、それらの企業は、先進工業国の企業と競争しつつ、グローバルな提携を進めその一翼を担っていることも確認できた。

これらの活動が、ラテン・アメリカと世界の新たな相互関係を築き、その経済の発展の可能性を拓き、とくに今日直面している金融的な不安定を解決するもっとも重要な条件となりつつある。

第3論文：「ヨーロッパ周辺各国の経済と企業活動」（『大阪産業大学経済論集』、第1巻第2号、2000.2）

<要旨>

ヨーロッパ統合は、経済的には統合された巨大な市場の誕生を意味する。それは、従来各国の市場にとどまって活動していた企業に、大きな飛躍の機会をもたらす。EU成立の過程で、EU内各国間の貿易だけでなく、直接投資やM&Aが活発になっている。

こうして、ヨーロッパ各国の企業がどのような発展の戦略を展開しているかを検討することが、ヨーロッパだけでなく世界的にみても重要な課題となっている。本論文では、とくにヨーロッパ周辺各国の企業の動向に焦点を当てて検討した。

北欧では、これまでこの地域を支えてきた製造業などの伝統的な産業がしだいに衰退し、社会の情報化とそれを支える新しい企業群が、これらの地域だけではなくヨーロッパ全域の新たな発展をもたらす原動力となりつつある。

遅れて工業化の道に入った南欧では、民営化が大胆に推進され、その結果生まれた新しい企業群がこれらの国の経済をけん引している。特に注目すべきなのは、これらの企業群が海外とくにラテン・アメリカへ活発に進出し、新しい経済圏を形成しつつあることである。

最後に、アイルランドは以上の2つの地域とは全く異なった発展の道を歩んでいる。アジアの工業化と近似した、アメリカ企業の積極的な受け入れとそれに強く依存した工業化である。

このような3つの発展の道とその間の競争が、今日のヨーロッパの発展をもたらしているもうひとつの原動力となっている。